

雲の観察カードを作ろう

1. ねらい

視覚的に捕らえることができるので、雲は気象分野で子どもたちにとり、一番親しみやすい対象である。天気に関心を持たせる動機付けに雲の写真を撮り、それらから雲の分類カードを自作する。この分類カードを利用して継続して雲観測ができるようにする。

2. 作業の手順

子どもたちに雲には色々な形があることを確認させ、雲への興味付けを行い、登下校時などに雲観測を行うようにさせる。

長期間にわたり特徴的な雲をデジタルカメラで撮影させ、データを蓄積させる(班別などで)。

雲を写真撮影する場合は、雲の大きさや高さなどが相対的に分かるように地上の建物などを写真の一部に入れるとよい。

雲の観察・分類のために十種雲形というものがあることを説明する。

子どもたちが撮った雲写真の十種雲形への分類を、班別などで教師の助言のもとで行う。

教師側で準備した雲写真とあわせて十種雲形に対応する十枚の写真(次ページに例を示す。)を用意する。

ワープロソフトなどで写真をはりつけ、名刺作成用の印刷用紙にプリントアウトする。(カードの裏側には分類用の雲のイラスト(図1)などを印刷するとよい。)

名刺カードを切り取り、(ラミネートし、)隅に丸い穴をあけ、二重リングでとめる。プラパッチなどで穴を補強するとよい。厚紙で表紙などを工夫してつくる。個別の「雲分類カード」を完成させる(図2)

このカードを利用した雲観測を子どもたちへの課題とし、天気への関心を喚起する。そこから1年間のある場所ある時刻での雲の種類別の出現頻度などの研究へと発展させる。



図2 雲の観察カードの例

〔佐藤昇〕

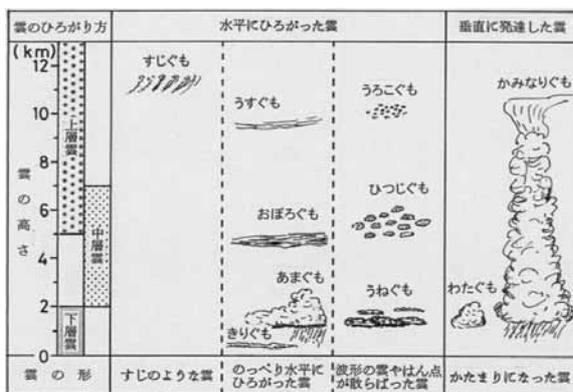


図1 分類用の雲のイラストの例

次ページに例示した雲写真の雲形
(左上から右下へ)

かみなり雲(積乱雲)	すじ雲(巻雲)
うろこ雲(巻積雲)	うす雲(巻層雲)
ひつじ雲(高積雲)	うね雲(層積雲)
きり雲(層雲)	あま雲(乱層雲)
わた雲(積雲)	おぼろ雲(高層雲)



